■斎藤拙堂 漢学者。藩校創設で抜擢され、「資治通鑑」を刊行し続けながら、伊勢に洋学を普及、名声は將軍にまで届いた。

さいとうせつどう

昌平饗始・・・1797＝ 江戸柳原の津藩上屋敷で生まれた。父正修は本姓増村氏。入婿して斎藤氏を嗣いだ。

げんろ報復・1806＝9歳：

・・・1815＝18歳：

若い頃から学問を好み、昌平饗に入って古賀精里に師事、刻苦勉強、古文に力を傾注して一家を成した。

水野忠成老中1818＝21歳：

群書類従刊・1819＝22歳：津藩儒員試補となり、

・・・1820＝23歳：*10代藩主藤堂高兌が、藩校有造館を創設するや、抜擢されて学職につき、

シボト朴来日・1823＝26歳：講官となって、禄二百石。

シボト朴鳴滝塾1824＝27歳：*11代藩主高猷の時に侍読となり、

有造館督学石川之裳の下にあつて「資治通鑑」校刊の仕事に従い、

富籤流行・・・1830＝33歳：「拙堂文話」刊行、

天保大飢饉始1833＝36歳：

・・・1836＝39歳：「拙堂文話」続編刊行。藩から「資治通鑑」の刊行を開始、

大塩平八郎乱1837＝40歳：

天保改革始・1841＝44歳：郡奉行になると、悪質な大庄屋を除いて弊害をなくそうと努め、

天保改革弾圧1842＝45歳：

天保改革終・1844＝47歳：有造館督学となって、文武の学政を総督、

阿部正弘首座1845＝48歳：

学制を改め、人材を登用し、広く書籍を購入して文庫を増設し、

北斎没・・・1849＝52歳：

*有造館に洋学館を創設して、遊学生を長崎に派遣、武場を拡張して操練をし、有用の士を江戸に送って洋学・西洋兵術を学ばせるなど、時勢の進運に処して、文教の振作に努めた。しばしば江戸に扈從して諸名士と交わり、津に拙堂ありと広く知られた。この年まで、14年間にわたって「資治通鑑」294巻を刊行した。

国定忠治疎・1850＝53歳：

尊徳報徳論・1851＝54歳：

「土道要論」刊行、

編「月瀬記勝」刊行、

学は古今に通じ、経義は宋儒の考えを主とし、たが、これを墨守せず、諸説をひろく集め、その正を採って折衷した。史伝に精しく老子・孫子二弁は、猪飼敬所が千古の卓見と称した。また海外にも目を注ぎ、

ペリー来航・1853＝56歳：

開国開港・・・1854＝57歳：

「鉄研余滴」刊行、

安政大地震・1855＝58歳：

種痘館を設置に尽力する。
江戸に来て、將軍家定に謁し、ついで幕府の儒官に挙げられようとしたが、幼い頃から近侍した藩侯の許を去るに忍びず、病気を理由に辞した。侯は三百石に禄を増した。

安政の大獄・1859＝62歳：

*致仕し、

桜田門外変・1860＝63歳：

薩摩藩士密航1865＝68歳：没した。

ほかに「救荒事宜」「海防策」「拙堂紀行文詩」「剛潤梅難遊記」など。